

11

10/31 [金]・11/1 [土]・2 [日] 『ヴォイツェック』●PLAT主ホール

2 [日] Tutti Autumn Concert 2025●PLATアートスペース

5 [水] ブラットワンコインコンサート 鈴木びあ乃「音のふるさと」●PLATアートスペース

8 [土]・9 [日] 劇団Philos. 第4回公演『フラートマン』●PLATアートスペース

12 [水] 立川志の輔 独演会 2025●PLAT主ホール

15 [土] 第12回愛知県泌尿器科医会 市民公開講座
あなたのお悩み泌尿器科のお医者さんに聞いてみよう●PLAT主ホール

21 [金] 人形浄瑠璃 文楽(解説・字幕付き)●PLAT主ホール

25 [火] キーウ・グランド・バレエ・シアター『くるみ割り人形』全幕●PLAT主ホール

29 [土]・30 [日] ブラット・レジデンス事業 新作共同制作
小尻健太<SandD>『Engawa, The Self in Season』●PLATアートスペース

12

6 [土] FemmeFatale「諸穂と浮雲」●PLAT主ホール

13 [土]・14 [日] 劇団M.M.Cオリジナルミュージカル2025『星の王子さま』●PLAT主ホール

20 [土]・21 [日] 二兎社『狩場の悲劇』●PLAT主ホール

20 [土] 「夢に出会える宝島」～音が紡ぐ物語～●PLATアートスペース

1

3 [土] ブラットワンコインコンサート TIII「新年を彩る音の福袋」●PLATアートスペース

10 [土] 0歳からの・はじめてのオーケストラ ～冬のコンサート～ ●PLATアートスペース

11 [日] 松山校区 二十歳の集い●PLATアートスペース

17 [土] 山田久美&水越宣友 ジョイントコンサート●PLATアートスペース



TOYOHASHI ARTS THEATRE
PLAT

表紙／溝端淳平、門脇 麦『狩場の悲劇』
撮影：山本典義

企画・発行／公益財団法人豊橋文化振興財団
編集・デザイン／味岡伸太郎＋有限会社STAFF
令和7年10月発行75号[隔月発行]

公益財団法人
豊橋文化振興財団情報誌
2025年11月～2026年1月

vol. 75



TOYOHASHI
ARTS
THEATRE
PLAT

プラットニュース

1

Interview:1

二兎社『狩場の悲劇』

怪しげな顔が似合う、

大満足のキャスティングです。

永井愛

3

Interview:2

人形浄瑠璃 文楽

太夫・三味線・人形は、それぞれが単独で、

それぞれが中心だと思っています。

鶴澤清志郎

5

Interview:3

小尻健太<SandD>

『Engawa, The Self in Season』

春夏秋冬以外のシーズン、

五つ目の季節も意識したい。

小尻健太

7

Interview:4

FemmeFatale「諸穂と浮雲」

タンゴは素のままで

民衆の歌心を大事にする。

安間誉和

9

Information

PLAT主催・共催公演情報

Ticket center

13

Pura pura

バラコの寄り道ぶらぶら

「霧ぬけて」

桑原裕子

14

Sponsor

Support

二兎社『狩場の悲劇』

チューホフの長編ミステリー小説をベースにした新たな劇世界。

12月20日[土]、21日[日]13:00開演

原作＝アントン・チューホフ

脚色・演出＝永井 愛

出演＝溝端淳平、門脇 麦、玉置玲央、亀田佳明、大西礼芳、
加治将樹、岡田地平、ホリユウキ、水野あや、石井愼一、佐藤 誓

会場＝PLAT 主ホール

永井 愛[ながい・あい]
劇作家・演出家・二兎社主宰。桐朋学園芸術短期大学演劇専攻卒。身辺や意識下に潜む問題をすくい上げ、現実の生活に直結したライブ感覚あふれる劇作を続けている。代表作に『ザ・空気』『ザ・空気 ver.2』『ザ・空気 ver.3』『鷗外の怪談』『歌わせたい男たち』『片づきたい女たち』『こんにちは、母さん』『見よ、飛行機の高く飛べるを』『ら抜き殺意』など。鶴屋南北戯曲賞、岸田國士戯曲賞、芸術選奨文部科学大臣賞、読売演劇大賞最優秀演出家賞、毎日芸術賞などを受賞。



怪しげな顔が似合う、
大満足のキャスティングです。
脚色・演出
永井 愛

今回の新作はチューホフのミステリー小説「狩場の悲劇」をベースに執筆されるとのことですが、どのように構成されるのでしょうか。

永井——チューホフがこれを書いたのは24歳のとき。19世紀末のロシアでは推理小説がはやっていたらしいのですが、この時期のチューホフはちよつと野心もあり、いわゆるそこの推理小説じゃないぞと、推理小説のパロディーみたいな形でこの作品を書いています。この小説では、主人公のセルゲイが、自身が遭遇した事件を基に書いた犯罪小説を新聞社に持ち込み、その小説の内容が物語として進行していきます。ところが途中で、「ここの書き方は〜だ」などと、編集長がツッコミを入れているような注が挟まれるんです。さらに小説が進むと、また別の注が入り……と、推理小説の展開の中に、現実の世界が繰り返し割り込んでくる。そのスタイルが斬新で、さすがチューホフだなと、私もそのスタイルで構成しています。

1872年を舞台にした芝居ではあっても、今観るべき普遍的な価値がなければやる必要はありません。その点、チューホフ作品には確かな普遍性があり、そこに現代の時代精神も重ねることができる。だからこそ面白いと思います。

今回の作品のなかにも、これまでの二兎社の作品と共通しているテーマはありますか。

永井——何か一つのことを書いてきたタイプの劇作家ではないのですが、芝居というのは、他人の人生を体験する芸術だと思うのです。画面で観るのではなく、生の人間が目の前で演じることで、観客はそこで起きる出来事に立ち会っているような気分になる。そうすると、いつの時代のものであろうと、もし自分がこういう状況に置かれたらどうなるだろうと考えますよね。そういった視点を失わないようにしています。あなたには関係ないお話ですが、みたいな語り口ではなく、あなたも登場人物のセルゲイやオーレニカの立場になる可能性があるし、そのような状況に置かれることはありますよ。巻き込みたいという意味では、チューホフをやろうと森鷗外をやろうと、私の立ち位置は共通しています。

今回、実力派ぞろいのキャストですが、どのようにキャスティングされたのでしょうか。

永井——キャスティングは、今回の役にぴったりな方たちが揃って、本当に大満足です。チラシやポスターのビジュアルでも、それぞれが怪しげな雰囲気を出していて、面白そうでしょうか？

門脇さんは、今までなかなか一緒にするチャンスがなく、この役は門脇さんにと内々で話した時に、受けていただけないのではという声もありました。それでもと

打診をしてみたら、会ってくださるという。チューホフでも有名な戯曲だと、ああ、またかみたいになるかもしれませんが、今回はあまり知られていない作品な上に、チューホフが24歳という若さで書いたミステリー。だからこそ、興味を持っていただけたのかもしれない。

どのようなタイミングでこの本に出会われたのですか。
永井——私、チューホフの戯曲も好きですが、小説はもっと好きで、舞台化できたらと思っていました。やりたいと思っていた作品は別にあつたのですが、陰惨な話で暴力描写もあり、いざとなったら尻込みしてしまって(笑)。その後、たまたまネットを見ていたら、おすすめで「狩場の悲劇」が出てきたんです。すぐに注文して読んでみたら、意外にも恋愛ミステリーで、これは面白そうだなと思いました。こういう成り行きで書くことになるのは好きですね。

チューホフの作品を読んで感じるのは、あの人、俗物が大嫌いなんですね。だからこそ、チューホフの作品は俗物について書かれているといってもいいくらい、あらゆる俗物が登場します。その中にちよつとだけまともな人がいる。このまともな人が俗物のためにひどい目に遭う。人間が100人いれば99人は俗物だというのは、多分、チューホフの実感でしょう。しかも、警察署長だとか治安判事だとか、そういう法律や行政の要職に就いている人が信じられないほどの俗物で、その俗物っぷりがものすごく可笑的い。

チューホフは、そういう日頃出会ったらつらい人物に仕返しをするような気分で、ニタニタしながら書いていたと思います。チューホフの描いた世界は、今の日本にも通じる。俗物でない人が俗物に振り回されてつらい目に遭うというのが、人類の悲喜劇の普遍的な構図かもしれませんね。ロシアのことをよく知らなくても、チューホフという切り口だけで共通項を見つけられる感じがします。

豊橋の印象をお願いします。

永井——豊橋は、劇場の中にワークショップや若い世代向けの演劇、次にくる公演の案内など、たくさんポスターが貼られていて、入った途端にわくわくします。こういういろんなものを観ているお客さまが二兎社も観てくださるのだと思うと、身が引き締まる思いです。また、ずいぶん顔も覚えていただいたようで、ロビーに立っているといろんな方が話しかけてくださる。舞台をご覧いただくだけでなく、ロビーで直接お話できるのも楽しみの一つです。良い作品をお届けし、豊橋のお客さまにまた鍛えていただきたいと思っています。
ありがとうございました。

Interview:

人形浄瑠璃 文楽（解説・字幕付き）

【昼の部】『義経千本桜』道行初音旅、『新版歌祭文』野崎村の段

【夜の部】『曾根崎心中』生玉社前の段、天満屋の段、天神森の段

11月21日[金]

昼の部 13:30 開演 夜の部 18:00 開演

会場＝PLAT 主ホール

鶴澤清志郎

[つるさわ・せいしろう]

人形浄瑠璃文楽座三味線。
長野県飯田市出身。平成4
年4月国立劇場第15期文
楽研修生、平成6年4月鶴
澤清治に入門、鶴澤清志
郎と名乗り、同年7月国立
文楽劇場にて初舞台。因協
会奨励賞、文楽協会賞、大
阪舞台芸術新人賞、国立劇
場文楽賞文楽奨励賞、咲く
やこの花賞など受賞多数。



聞き手 飯田幸司 穂の国とよはし芸術劇場PLAT事業制作部施設管理リーダー

鶴澤清志郎 三味線

太夫・三味線・人形は、それぞれが単独で、
それぞれが中心だと思っています。

飯田——人形劇が盛んな飯田市ご出身ということですが、文楽・三味線とのなれ初めをお聞かせください。
清志郎——飯田市では、夏に人形劇フェスティバルが開催され、そのもととなる人形浄瑠璃が盛んに残っていた土地です。地芝居の今田人形座に父親が入っていた関係もあって、4、5歳の頃から、遊びには行っていたのですが、中学校で人形浄瑠璃のクラブに入って人形を遣ったのが初めてでした。

しかし、5歳から詩吟をやり、発声が違うためか、学校ではみんなと合唱ができず、いつも指揮者をやらされたり外されて、音楽が嫌いになって、三味線はもちろん、楽器は全然やりませんでした。

飯田——それがどのようにして三味線弾きに進んでいかれたのですか。

清志郎——人形遣い志望だったのですが、国立劇場の文楽研修生になると、太夫・三味線・人形の三業全部を習います。そこで初めて三味線に触れました。研修の期間は全体で2年で、最初の半年ぐらいで何を専攻するかを希望します。その時、17歳ぐらいでしたが、より苦手で嫌いなものを選択したほうが自分を鍛えられると三味線を選びました。好物をすすように曲を暗譜するのではなく、泥水をはきながら入れていくような感じですから、とにかく覚えられなくて、時間がかかります。覚えるために弾いていたら、技術も少しずつ向上していくという、自力ではなく、普通に生きていたらなんとなく先に進めるという、このいい状態が今。

飯田——太夫と三味線と人形遣いの三業一体の文楽で、三味線はどのような役割なのでしょう。

清志郎——太夫・三味線・人形は、それぞれが単独でも成立する状態にしたまま、それを組み上げているものなので、それぞれが中心だと思っています。三味線弾き側から言えば、三味線が中心で進んでいる芸能で。これが骨、腰なのです。旋律を握っていることはリズム、速度を握っているということになります。文章そのものは太夫が握っているので、ここが絶対王者ですが、太夫を操っているのが僕たち三味線弾きです。そういう意味では、僕たちの良し悪しが太夫の語りの良し悪しも決めるし、そのことは人形遣いの動きの良し悪しも決めるので、舞台がよくなるかどうかは三味線弾き次第です。その雰囲気づくりが成功し、太夫と人形を同じように物語の中に引きずり込んで酔わせることができれば、当然お客さまもその世界に没頭できます。その好循環を生む最初のスイッチが三味線です。

飯田——三味線は作品の中の人物たちの雰囲気を作ることとかもやっていらっしゃるんですよね。

清志郎——登場人物の心情。何歳のどの身分のどの性別の人がどの状況で喜び、苦しんでいるか、答えは文章に全部書かれているので、それに音を寄せていけばいいのです。それを立体的にして、今はどういう季節で、家の中なのか桜満開の屋外なのか、その雰囲気が音に表れていれば太夫がその世界に入っていることになり、好循環が生まれていきます。

飯田——演奏している時にそれを感じることはありませんか。

清志郎——ありますね。お客さまは鋭い。初めて来た方を感動させることができたら最高です。すごい迫力の場面は、お客さまが内容も分からなくても、ぐっと迫るものがあると、子どもさんでも思ってくれる方もいる。具体的にそれを示す方法と、それをぶつけていく力が三味線にはあるので。上品に弾けばいいだけではないのです。

飯田——ご出演の『曾根崎心中』は、いわゆる道行というスタイルで三味線も非常に重要な要素ですね。

清志郎——師匠(鶴澤清治)が出られる『義経千本桜』の道行が時代物の最高傑作だとしたら、これは世話物の最高点になる一つです。師匠いわく、こういう道行のものは三味線弾きの良し悪しが全体を決めていきます。特に、これは心中場で、不幸の最高潮の、これから死ぬという道行なので、華やかな『義経千本桜』とは、その雰囲気は真逆です。しっとりとした中に、修羅場的な狂気が混ざっているものをどうやって表すか、弱い中にある強さみたいな不思議な状態を作らなければいけない。弱かったら伝わらないし、強すぎたら「物が飛ぶ」と言われるのですが、雰囲気が壊れます。その辺の境目が難しい作品です。

飯田——文楽が初めてという方も伝わる生の迫力を味わいに来てほしいと思います。

清志郎——人形劇は、人間のなまなましさと違った人形独特の美しさが際立っています。きれいな人形はずっときれいなままです。歌舞伎は技術が上がっていくと年齢も同時に上がり、70歳の方が14、15歳を演じている。技術はいいけどビジュアル的にどうだろうということも起こり得るのですが、文楽の場合は技術力とビジュアル面が合致したままです。汗でドロドロにメイクが流れることもない。そういう良さが人形劇にはあります。

飯田——豊橋の方にメッセージを一言お願いします。

清志郎——豊橋は、城もあって、東海道の宿場町でもあるし、吉田文楽さんが残っている。いろんなお祭りもあり、古い文化をすごく残しています。近年豊橋へは吉田文楽さんに稽古で伺いますし、実家の最寄り駅が飯田線なので、ご縁を感じますね。文楽を観ようという気のある人が多い街は、文化的な感覚が鋭いから、街そのものの雰囲気が豊かです。豊橋もそういう街だと思います。衣装の色彩とか、アンプとかマイクを通さない、生の音の魅力も感じてほしい。PLATは強い刺激のものをたくさん呼んでおられますが、たまに食べる白米と生卵みたいなシンプルなもの。たまにはそういうものも味わってほしいですね。

飯田——公演が待ちどおしいです。ありがとうございます。

Interview: 2

プラット・レジデンス事業 新作共同制作

小尻健太〈SandD〉 『Engawa, The Self in Season』

〈ダンス・レジデンス〉が進化&深化し、
気鋭の新作が豊橋で誕生。

11月29日[土]、30日[日]14:00開演

振付演出・コンセプト＝小尻健太

セノグラフィー・コンセプト＝ハネス・マイヤー

出演＝鳴海令那、佐藤琢哉、堀田千晶、

畠中真濃、青柳 潤、小尻健太

会場＝PLAT アートスペース

セノグラフィー(舞台美術)のハネス・マイヤーさんについてお聞かせください。

小尻——ハネスとは国際芸術祭「あいち2022」で出会いました。スイス連邦工科大学チューリヒ(ETH チューリヒ)グラマツィオ・コラー研究室と東京大学T-ADS 小淵祐介研究室による二つのインスタレーション展示「Kizuki-au 築き合う—Collaborative Construction」のオープニングイベントで、双方のインスタレーションをつなぐダンスパフォーマンスは可能かという相談をスイス大使館からいただいたんです。その際スイス側のスイス連邦工科大学チューリヒチームの一人がハネスでした。彼らの建物には縁側のような部分があり、猛暑だったのでパフォーマンス中ひと息つくため、そこに座って観客や夜空を眺めるシーンを作ったんです。公演後ハネスに聞いたら、それまで縁側として座る人は誰もいなかったそうで「健太はずっと座った。それは何もない時間だったけど、いちばん濃厚な時間でもあった。」と言ってくれました。そこで僕が縁側を好きなことを伝えと、ハネスも好きだと言うんです。以降、世界各地で会う度に縁側の話をしていたので「縁側

春夏秋冬以外のシーズン、
五つ目の季節も意識したい。

小尻健太

振付演出・コンセプト

取材・文 小島祐未子

を題材と一緒にやらない？」と僕から提案したんです。ダンスに建築的な視点をどう反映させていくのか自分の知識だけでは難しかったので、ハネスにメンター(指導者／アドバイザー)として協働リサーチをお願いしました。

ハネスさんは今どんな存在ですか。

小尻——とても良い友だち。僕は振付や作品構築を巡って想像的な説明もしがちなんですけど、ハネスはそを汲み取って助言してくれます。縁側という曖昧な空間の創作を言語化していかないといけない時「ダンスだと音楽も身体も一体化する感覚があるんだけど、縁側も同じことを感じる」など感覚的なイメージを伝えとハネスが「健太はレイヤーを作りたいんだね？一人で踊る、二人で踊る、グループで…と、踊りや空間を差別化して全体に行き渡らせることで曖昧さを作りたいんじゃない？」と言葉にしてくれるんです。友だちのように語り合えるので、今はメンターというよりコラボレーターという関係になっています。

西洋にもウッドデッキなどがありますが、縁側特有の魅力は何でしょう？

小尻——縁側は時代とともに変化してきて、今まさに無くなりつつあるものですね。日本家屋の縁側は風通しを良くする工夫として生まれました。現在では猛暑もあり縁側は役割を終えたとも言えますが、日本庭園や寺院では数多く残っているし、観光でわざわざ訪れたい場所になっている。無くなっているんだけど、みんながすごく大切にしているものという点が僕らの「記憶」とつながるといえるのか…。ダンスは何回も踊って振付を記憶し、音楽が流れたら自然と踊れるようにします。縁側の在りようは、その感覚に似てるんですよ。そして、あの独特の空間に座って外の風景を眺めると自分の根底を感じるんです。「日本人なんだなって。」海外の方も名所の縁側で長居していますから、万国共通の「居られる」何かもありそうです。

小尻——そういう感覚が踊っている時とすごく似ているんですよ。「居られちゃう」というのは「動いちゃう」みたいな感覚に通じます。風景を見ていて、いろんな記憶が走馬灯のようによみがえっては消えたり、ぼーっとしているだけで風の心地よさを感じたり…。踊っている時もそんな感覚に近い。妄想と現実の境目というか、何か気持ちいい感じになれるのは踊っている時とすごく似ています。

新作に『The Self in Season』と題した理由は？

「in season」は「旬」の意味もありますね。

小尻——どんな年齢になっても「今が旬である」ことを信じて身体で表現するのがダンサーだと思うので、「いつも旬でありたい」という願いはあります。一方で実際に縁側を作るわけではなく縁側で感じることや想像することを創作の起点にしたいので、そうなるといちばんつながりが深いのは四季。四季の移ろいの中

どの季節でどういうことを思うのか対比させる意味でもseasonという言葉を使っています。また、春夏秋冬のほかに、新しい「第五の季節」のようなものを意識しています。たとえば、夏のコンビニでふと思い出す冬の肉まんの記憶や、駅や通学路といった日常の空間、そしてゲームやSNSでのデジタルなやり取り——従来の季節感とは異なる、現代ならではの新しい季節のイメージです。

バレエやダンス、オペラ、ミュージカル、フィギュアスケートの振付などの活動を通して、身体表現の本質は、技術の巧拙に関わらず、人となりの魅力やエネルギー、感情がどれだけ届くかにあると感じています。ダンス作品としては、その力を活かし、人や空間、時間との関係を紡ぎ、新しい出会いや気づきを生み出すことを大切にしています。どこの国や年齢の方でも縁側を楽しめるような、普遍的な作品を目指しています。

この公演は〈ダンス・レジデンス〉から発展したのですが、豊橋での滞在制作はどんな経験となりましたか。

小尻——踊ることでもいろんな方とつながってコミュニティもできて、今また呼んでいただいている。温かいつながりを公共劇場で育めると知り、価値ある場に加えていただけたことは励みになりました。またアーティストはどうやって社会とつながれるのかも考えました。僕は海外生活が長く、アットホームな気持ちで日本に帰ってきてもどこか外国人のようで…。良い意味だとゲストだけど、部外者のような扱いを受けることも多かった。そういう経緯もあって滞在中、ABTとよはしブラジル協会に日系ブラジル人の方を紹介していただいたんです。ソロパフォーマンス『Study for Self/portrait』をさらに広げる取り組みとして滞在中に気づいたのは、自分で自分を表現していても、ふと他の人に見える瞬間があるということです。滞在中はいろんなルーツを持った方と出会い、アーティストとしてこれから何をしたいか考える時間にもなり、これまでの歩みを振り返る機会にもなりました。

小尻健太[てじり・けんた]
ダンサー・振付家。1999年ローザンヌ国際バレエコンクールにてプロ・スカラシップ受賞。モナコ公国モンテカルロバレエ団、ネザーランド・ダンス・シアターに在籍し、イリ・キリアンなど世界的な現代振付家の作品に出演。2010年よりフリーランスとして国内外で活動。17年より「SandD」を始動し、ジャンルや世代を横断した舞台芸術におけるダンサーの身体の内方を探求している。近年は、ミュージカル『エリザベート』振付、舞台『千と千尋の神隠し』(カオナシ)出演、フィギュアスケート日本代表選手の表現指導、横浜赤レンガ倉庫1号館振付家を務めるなど、多岐にわたる活動を展開。

石田——2024年のプラットフォームコンサートでは、濃密なアルゼンチン・タンゴと瑞々しいオリジナル曲の演奏で大盛況でしたね。豊橋出身の安間誉和さんにお聞きますが、バンドを結成したきっかけは何ですか。

安間——本当に偶然ですが、大学1年生の2021年に、藝大で行われたピアノ生誕100周年イベントを僕と長谷川君と悦木君の3人で観に行きました。そこで同期の、既にプロのバンドネオン奏者として活躍していた鈴木崇朗さんの演奏を聴いて、すごい人がある！一緒にやりたい！と思って声をかけました。一学年下の大地君も、翌年の研究演奏会でヴァイオリンが上手くて強烈だったので誘おうと。1年生の頃はコロナ禍で、学校に通えずオンライン授業だったのですが、人と接することに飢えていた反動で何かやりたいという強い衝動が生まれたのかなと思います。もし

コロナがなかったら、ここまでの経験は得られなかったかもしれません。

石田——鈴木さんは当時、コロナ禍で演奏機会が減ったので藝大を受験したと聞きました。皆さんは元々タンゴがお好きだったのですか。

安間——長谷川君は前からピアノが好きだったみたいですが、僕はこれがアルゼンチン・タンゴとの出会いでした。すごく独特で、格好良くて、衝撃的で。未知の世界に足を踏み入れてしまったかもしれないという、ぞわぞわした感覚が今でも残っています。日本には若いタンゴ奏者が本当に少ないので、僕たちの演奏を通じて、もっと色んな方に楽しんでいただけたらという思いで取り組んでいます。

石田——タンゴだけでなく、オリジナル曲も演奏されていますね。

安間——作曲出来る人が2人もいるし、タンゴだけで

聞き手 石田晶子 穂の国とよはし芸術劇場PLAT 事業制作部

安間誉和

ピアノ・作曲

タンゴは素のままで民衆の歌心を大事にする。

は勿体無いよねという話になって。バンドネオンという特殊な楽器もあるので、僕が小学6年生のときの作品をこのバンドのためにアレンジしようと思ったのが始まりです。

石田——いつから作曲を始めたのですか。

安間——オリエント楽器の音楽教室で6歳からピアノを始めて、年に1曲は必ず作曲していました。小学4年から中学3年までは、月1回必ず作曲のレッスンにも通って…。物事を途中で止めるのがあまり好きじゃないので、音楽も止めたくなくて。続けていたら世界が広がっていった感じです。作曲科に進むことも考えましたが、僕にとって作曲は逃避先というか、内面を表現できる安全な世界だったので、大切なものを壊したくないと思って楽理科に決めました。世界中の音楽を学問的に捉えることが出来るので、すべての音楽に価値があるという意識を持ち続けていられたことが

Interview: 4

若手音楽家育成事業

FemmeFatale 「諸穂と浮雲」

アルゼンチン・タンゴとオリジナル楽曲を両軸に活動する、
注目必至のインストバンドが主ホールに登場！

12月6日[土]14:00開演

会場＝PLAT主ホール

悦木啓人[ベース・クラリネット・作曲]

安間誉和[ピアノ・作曲]

鈴木崇朗[バンドネオン]

山本大地[ヴァイオリン]

長谷川志樹[ピアノ・メロディオン・シンセサイザー]

FemmeFatale[ファム・ファタレ]

2023年、東京藝術大学楽理科に在籍するメンバーで結成。バンドネオン奏者鈴木崇朗主導によるアルゼンチン・タンゴと、安間誉和、悦木啓人両名によるオリジナル楽曲を中心に活動。オリジナル楽曲《park-grass》が東京藝術大学園祭「藝祭2023」公式テーマ楽曲に選出されたほか、《Ophelia》が「東京藝大アートフェス2024」ウェブ掲載作品として採択されるなど、在学中から高い評価を受ける。Hibiya festival 2025「NEXTアーティスト2025」選出。

良かったと思います。

石田——タンゴの魅力や好きなところを教えてください。安間——タンゴには軽い曲も重い曲もあるので、どんな心情にも調和できるんです。僕の感覚ですが、ジャズは人間のネガティブな部分をポジティブに昇華するイメージがあるんですけど、タンゴでは昇華しなくても、素のままで良いと感じています。民衆の歌心を大事にするタンゴの音楽性が、ハーモニーとメロディを重視する僕の世界とマッチしたのかもしれません。実は劇伴にも興味があるので、いつかPLATの演劇公演でも一緒にできたらと思っています。

石田——それはとても楽しみです。安間さんはどのように曲を作っているのですか。

安間——色んな本を読み込んで、コンセプトを決めて作る事が多いです。『常寂光寺の四季』は鴨長明の随筆『方丈記』から、プロットや、鴨長明の生き様を元に作曲しました。僕は抱え込んで苦しみながら生み出すタイプですが、悦木君は違うんです。真剣に向き合うだけでなく、遊ぶ感覚もどこかで大事にしなければいけない。悦木君は音楽をしているときが一番楽しそうなので、彼の姿を見ていつも姿勢を正されています。石田——それぞれ個性が違うのがFemmeFataleの良さですね。12月の演奏会の構想はありますか。

安間——晩年のピアノ奏者が、モンテリオール・ジャズ・フェスティバルでゲイリー・パートンというビブラフォニストと一緒に演奏したときのサウンド感を、この5人で形にしたいです。ベース、バンドネオンとヴァイオリンの音色の間を、ピアノが行き来する。そこに、鍵盤打楽器特有の金属的な、はじける方向性の音を加えていく。エレキベースとシンセサイザーで編成を現代的にしながら、アコースティックとエレクトロを両立させるサウンドを今は目指しています。

石田——新曲も含めて、皆さんの進化がとても楽しみです。豊橋のお客様にメッセージをお願いします。

安間——豊橋での縁があってこそ、ここまでやってこれたと思っています。この1年間で演奏経験を積み、タンゴの世界の解像度が上がってきたことで、自分たちの方向性が明確になりました。主ホールでの公演という目標ができたからこそ、メンバー全員で色々と考え、向き合い続けることが出来たので、その成長の果実を音楽で表現したいという思いをタイトルの「諸穂と浮雲」に込めました。

日本で生まれ育った僕らが、アルゼンチン・タンゴをやる意味をずっと考えてきました。本場の海外の感覚に照準を合わせていくのではなく、日本の皆様が日々感じている四季の移ろいや日常の感覚を、そのまま会場に持ってきて聴いて下さればいいなと思っています。アルゼンチン・タンゴを聴いたことがない人でも、日本で培った感性を経由しながらタンゴの世界を楽しめるように、FemmeFataleの音楽をお届けしたいと思います。

石田——ありがとうございました。

Pick up

ヴォイツェック

好評発売中


11月1日のみ

森田剛主演で19世紀を代表する未完の戯曲が現代に蘇る！
時代を挑発する、ジャック・ソーンのニュー・アダプテーションを
小川絵梨子の演出で待望の日本初演！

10/31 [金] 18:00開演
11/1 [土] 13:00開演／18:00開演
11/2 [日] 13:00開演
ジャック・ソーンの翻案で現代に蘇る、19世紀ゲオルク・ビューヒナーの未完の戯曲「ヴォイツェック」。小川絵梨子の演出で、待望の日本初演！

【あらすじ】
冷戦下のベルリン。軍事占領下の緊張が渦巻く街で、イギリス人兵士ヴォイツェック（森田剛）は、幼少期のトラウマとPTSD、そして貧困の記憶に苛まれながら生きていた。薬物投与による幻覚とフラッシュバックが彼の心を蝕み、現実と過去の境界が崩れ始める。愛する人への狂おしいほどの執着と嫉妬が、彼を予想だにしない運命へと導いていく――。

原作＝ゲオルク・ビューヒナー
翻案＝ジャック・ソーン
翻訳＝高田曜子
上演台本・演出＝小川絵梨子
出演＝森田 剛、伊原六花、伊勢佳世、浜田信也／中上 サツキ、須藤瑞己、石井 舜、片岡蒼哉／富家ノリマサ、栗原英雄
会場＝PLAT主ホール
料金＝[全席指定]S席 11,500円、Sベア席 22,000円、A席 8,000円 ほか
[共同主催：メ〜テレ、メ〜テレ事業]



野村万作・野村萬斎

好評発売中


14:00の日のみ

狂言公演 2025

10/24 [金]

14:00開演／18:30開演

人間国宝・野村万作と、現代劇や映画でも活躍する野村萬斎、若手狂言師として注目の集まる野村裕基ほか「万作の会」による狂言公演です。
出演＝野村万作、野村萬斎、野村裕基 ほか万作の会
演出＝「柑子」、狂言による「彦市ばなし」
会場＝PLAT主ホール
料金＝[全席指定]S席 6,000円、A席 4,000円 ほか
【特別協賛】サーラグループ



立川志の輔 独演会 2025

11/12 [水] 14:00開演 予定枚数終了

古典、新作問わず落語に新しい息吹を吹き込む、大人気の立川志の輔による独演会を開催いたします。
出演＝立川志の輔
会場＝PLAT主ホール

人形浄瑠璃 文楽

好評発売中


11月21日のみ

(解説・字幕付き)

11/21 [金] 昼の部 13:30開演
夜の部 18:00開演

物語を語る「太夫」、情景を音で表現する「三味線」、一体の人形を三人で遣う「人形」。これら三つの要素がひとつとなって表現する日本の代表的な古典芸能を、初めての方にもわかりやすい解説と字幕付きで上演します。また昼夜公演の間には人形遣いによるミニレクチャー（無料）を実施。
演出＝
【昼の部】『義経千本桜』道行初音旅、『新版歌祭文』野崎村の段
【夜の部】『曾根崎心中』生玉社前の段、天満屋の段、天神森の段
会場＝PLAT主ホール
料金＝[全席指定]一般 5,500円、昼・夜通し券 9,000円、2階席一般(追加公演) 3,000円 ほか



二兎社

好評発売中

『狩場の悲劇』

12/20 [土] 13:00開演
12/21 [日] 13:00開演

永井愛、4年ぶりの新作！
アントン・チェーホフの長編ミステリー小説『狩場の悲劇』をベースに新たな劇世界を創造します。
帝政ロシアの人間社会をレポートしたチェーホフと、人間ドラマを通して日本社会や時代の様相を描いてきた永井の、時間と空間を飛び越えた奇跡のコラボレーション！

SELECT 4

マイセレクト4 対象公演


託児サービス対象公演
要予約。生後6ヶ月以上。
お一人様500円。お申込み、お問合せはプラットチケットセンター・劇場ホームページまで


ポータブル字幕機貸出対象公演
聴覚に障がいのあるお客様のためのポータブル字幕機の貸出あり【要事前予約】


舞台説明会対象公演
視覚に障がいのあるお客様のための舞台説明会あり【要事前予約】

プラット・レジデンス事業 新作共同制作

好評発売中


11月29日のみ

小尻健太<SandD>『Engawa, The Self in Season』

11/29 [土] 14:00開演
11/30 [日] 14:00開演

プラット・レジデンス事業第2弾として、2022～2023年にダンス・レジデンスで滞在制作を行った小尻健太<SandD>を迎え、PLATともに新作ダンス作品を共同制作します。季節のうつろいと私たちの暮らしをつなぐ縁側という視点から、環境と共存する身体の内を問い直す。小尻健太とドイツを拠点とする建築家ハネス・マイヤーとの協働リサーチから生まれるダンス作品にご期待ください。振付演出・コンセプト＝小尻健太
セノグラフィー・コンセプト＝ハネス・マイヤー
出演＝鳴海令那、佐藤琢哉、堀田千晶、畠中真濃、青柳 潤、小尻健太
会場＝PLATアールスペース
料金＝[全席自由・日時指定・整理番号付]一般 4,000円 ほか



【関連企画】

小尻健太<SandD>オープンスタジオ

11/23 [日] 13:00～14:30

新作ダンス公演、小尻健太『Engawa, The Self in Season』の創作・リハ・サル風景の見学と、簡単なデモンストレーションがご覧いただけます。
会場＝PLAT創造活動室A
対象＝どなたでも 参加費＝無料
定員＝30名程度
申込方法＝
①プラットチケットセンター窓口・電話(0532-39-3090)
②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

小尻健太<SandD>

ダンスワークショップ

11/23 [日] 15:00～18:00

小尻健太のダンス創作プロセスを体験できるワークショップを開催します。
講師＝小尻健太
会場＝PLAT創造活動室A
対象＝高校生以上
参加費＝一般 2,000円、高校生 1,000円
定員＝20人(選考)
申込方法＝11月9日(日)20:00までに
①劇場ホームページの専用申込フォームより申込み
②申込書に必要事項を記入の上、窓口にて持参かFAX(0532-55-8192)

若手音楽家育成事業

好評発売中


11月23日のみ

Femme Fatale

「諸穂と浮雲」

12/6 [土] 14:00開演

2024年度プラットワンコインコンサートで好評を博したFemme Fataleが主ホールに登場。オリジナル曲とピアノを中心に奏でるアルゼンチンタンゴを両軸に活動する、今、注目必至のインストバンドのステージをお見逃しなく！
出演＝安間誉和[ピアノ・作曲]、悦木啓人[ベース・クラリネット・作曲]、鈴木崇朗[バンドネオン]、長谷川志樹[ピアノ・メロディオン・シンセサイザー]、山本大地[ヴァイオリン]
演奏予定曲目＝安間誉和：park-grass、常寂光寺の四季、A・ピアノ：リベルタンゴ ほか
会場＝PLAT主ホール
料金＝[全席指定]一般 2,000円、U25 1,000円




12月20日のみ


12月20日のみ


12月21日のみ


12月21日のみ

原作＝アントン・チェーホフ
脚色・演出＝永井 愛
出演＝溝端淳平、門脇 麦、玉置玲央、亀田佳明、大西 礼芳、加治将樹、岡田地平、ホリエウキ、水野あや、石井 信一、佐藤 誓
会場＝PLAT主ホール
料金＝[全席指定]S席 7,000円、A席 5,000円 ほか
※20日(土)終演後トークあり

Work shop

ワークショップ・レクチャー

市民と創造する演劇『赤鬼』



舞台手話通訳付きバージョン 2026/3/7【土】



3月7日
13:00のみ

13:00 開演／17:30 開演 2026/3/8【日】13:00 開演

2025年度の「市民と創造する演劇」は、PLATで『凜然グッドバイ』(2021年)や、『楽屋一流れ去るものはやがてなつかしきー』(2022年)の舞台手話通訳付き公演を演出した樋口ミユを演出に迎え、1996年の初演以降、日本だけでなくイギリスやタイ、韓国でも上演されてきた野田秀樹の名作『赤鬼』を舞台手話通訳と共に上演します。

会員先行＝12月13日(土)
一般発売＝12月20日(土)
作＝野田秀樹
脚色・演出＝樋口ミユ
振付＝武田幹也
音楽協力＝棚川寛子
会場＝PLATアートスペース
料金＝[全席自由・日時指定・整理番号付]一般2,000円 ほか

2024年度ワークショップ&ショウイング『赤鬼』より



【関連募集】

市民と創造する演劇 市民スタッフ募集

プロスタッフ、オーディションで選ばれた出演者とともに作品を作り上げていく、市民スタッフを募集いたします。
活動期間＝2026年1月～3月8日(日)
対象＝高校生以上で、2026年1月～3月8日(日)に市民スタッフとして舞台づくりに積極的に参加してくれる方。
定員＝なし
申込方法＝12月14日(日)までに
①参加申込書に必要事項を記入の上、窓口にて持参かFAX(0532-55-8192)
②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

三谷幸喜新作公演

2026/3/20【金】

2026/3/21【土】

2026/3/22【日】

会員先行＝WEB抽選のみ。11月21日(金)10:00～12月2日(火)23:59まで。
※申込方法詳細はホームページでご確認ください。
一般発売＝2026年1月10日(土)
作・演出＝三谷幸喜
出演＝小栗 旬、菊地凛子、平岩 紙、相島一之
会場＝PLAT主ホール
料金＝[全席指定]S席11,000円、A席8,000円 ほか
※一般発売日初日は、お一人様2枚までの枚数制限あり

旅する舞台映像シリーズ

～つくり手と観客を結ぶ上映会&トーク～

劇団小松台東『ソファー』(字幕付き) 舞台映像上映会& 松本哲也・佐藤こうじトーク

10/18【土】14:00～17:00

日常の中にある繊細な感情や関係を丁寧に描き続けてきた劇団小松台東。その代表作のひとつ『ソファー』を、舞台映像でご覧いただける上映会を開催します。上映後には、作・演出の松本哲也さん、音響の佐藤こうじさんを迎えてのトークセッションを実施します。

ゲスト＝松本哲也、佐藤こうじ
会場＝PLAT 創造活動室A
対象＝どなたでも
参加費＝一般1,000円、25歳以下500円
定員＝40名(先着順)
申込方法＝
①プラットチケットセンター窓口・電話(0532-39-3090)
②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

小松台東『ソファー』舞台写真



劇団アンパサンド

『歩かなくても棒に当たる』 舞台映像上映会&安藤 奎トーク

11/24【月・祝】14:00～17:00

現代の“違和感”や“静かな混乱”を鋭く捉えた本作『歩かなくても棒に当たる』で、第69回岸田國士戯曲賞を受賞した劇団アンパサンド。注目を集めた本作を、スクリーンで体験できる舞台映像上映会を開催します。上映後には、作・演出を務めた安藤奎さんを迎えてのトークセッションを実施します。

ゲスト＝安藤 奎
会場＝PLAT 創造活動室B
対象＝どなたでも
参加費＝一般1,000円、25歳以下500円
定員＝40名(先着順)
申込方法＝
①プラットチケットセンター窓口・電話(0532-39-3090)
②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

劇団アンパサンド『歩かなくても棒に当たる』舞台写真 ©前澤秀登



プラット演劇研究&劇評講座2025 「演劇を観る、語る —作品にもう一歩近づくレッスン」

11/15【土】～2026/3/15【日】 【全4回】

プラットで上演する演劇公演を観て、その体験を文章にして読み合い、深め合う、演劇研究と劇評講座を開催します。今回は、二兎社『狩場の悲劇』と市民と創造する演劇『赤鬼』を題材にします。

作品の背景や作り手の思いを知り、公演を観て感じたことを自分の言葉で表すことで、観劇をより豊かな体験にしていきます。

講師＝山口宏子
会場＝PLAT
対象＝高校生以上で、プラットで上演する、二兎社『狩場の悲劇』と市民と創造する演劇『赤鬼』を観劇予定の方。どちらかのみ観劇でも可。

参加費＝
一般4,000円、25歳以下2,000円、高校生1,000円
定員＝15名(先着順)
申込方法＝11月5日(木)までに
①劇場ホームページの専用申込フォームより申込み
②申込書に必要事項を記入の上、窓口にて持参かFAX(0532-55-8192)

ワークショップファシリテーター

養成講座2025[後期]

まちと創る演劇(仮)

12/13【土】～2026/1/25【日】 【全8回】

豊橋の人や場所取材し、そこで出会ったことに焦点を当て、参加者全員で演劇をつくり発表する連続ワークショップです。今年度は、豊橋に暮らす外国にルーツを持つ方々や彼らを取り巻く環境に焦点を当てます。

講師＝柏木 陽、すずきこた
会場＝PLAT
対象＝18歳以上で、講座日程に極力参加できる方。演劇経験不問。
参加費＝3,000円[全8回]
定員＝20名(応募者多数の場合は選考)
申込方法＝12月1日(月)17:00までに
①劇場ホームページの専用申込フォームより申込み
②申込書に必要事項を記入の上、窓口にて持参かFAX(0532-55-8192)

One coin concert

ワンコインコンサート

若手音楽家育成事業 プラットワンコインコンサート2025

「若い音楽家には活躍の場を、お客様にはより音楽を楽しむ機会を」と企画されたPLATオリジナルのコンサートです。500円で贅沢なひとときをお過ごしください。
会場＝PLATアートスペース
料金＝[全席自由・日時指定・整理番号付]500円

鈴木ぴあ乃

「音のふるさと」

11/5【水】

14:00 開演

出演＝

鈴木ぴあ乃[フルート]

演奏予定曲目＝シヨパン:

ノクターンOp.9-2、ベーム:

グランドボロネーズ ほか

鈴木ぴあ乃[フルート]



トリノ

TIIT 「新年を彩る音の福袋」

2026/1/3【土】

14:00 開演

発売＝11月4日(火)

出演＝

松原理子[クラリネット]、

福井明日香[ピアノ]、

石丸柔碓[ドラム]

演奏予定曲目＝モーツァルト:トルコ行進曲(ファジ

ル・サイ ver.)、アーティ

シヨウ:クラリネット協奏曲

ほか

松原理子[クラリネット]



福井明日香[ピアノ]



石丸柔碓[ドラム]



中村由紀子

「マリンバで紡ぐ水の変容」

2026/2/4【水】

14:00 開演

発売＝11月4日(火)

出演＝

中村由紀子[マリンバ]

演奏予定曲目＝ジェイコ

ブ・ドラッグマン:水の反映、

クリストファー・テオフアニ

ディス:アリア ほか

中村由紀子[マリンバ]



Dance residence

ダンス・レジデンス

豊橋アーティスト・イン・レジデンス ダンス・レジデンス2025

竹内 梓

滞在日程＝10月31日(金)～11月10日(月)

滞在内容＝新作『FURERU/触れる』2026年フランス世界初演に向けた日本在住アーティストとのクリエイション
メンバー＝竹内 梓、橋本玲奈、山口晋似郎、高田政義

竹内 梓 ワークショップ

「触れる、触れてみる」

11/1【土】10:00～12:00

会場＝創造活動室A

参加費＝1,000円、小学生～高校生500円

定員＝15名(先着順)

申込方法＝

①劇場ホームページの専用申込フォームより申込み

②申込書に必要事項を記入の上、窓口にて持参かFAX(0532-55-8192)

竹内 梓 成果発表会

11/9【日】15:00～16:00

会場＝創造活動室A

対象＝どなたでも

参加費＝無料

定員＝30名(先着順)

申込方法＝

①プラットチケットセンター窓口・電話(0532-39-3090)

②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。



©Kazuki Teramoto

レゾナント

Resonants

「フランスから広がる音の旅」

2026/3/11【水】14:00 開演

発売＝11月4日(火)

出演＝伊藤澄香[ヴァイオリン]、河邊直生[ピアノ]

演奏予定曲目＝ラヴェル:ツィガヌ、水の戯れ ほか

伊藤澄香[ヴァイオリン] ©井村重人



河邊直生[ピアノ]



Ticket center

チケットセンター

チケットの購入・お問合せ プラットチケットセンター

●オンライン

https://toyohashi-at.jp[24時間受付・要事前登録]

●電話・窓口

0532-39-3090[休館日を除く10:00～19:00]

発売初日はオンライン・電話のみ取り扱い。
翌日以降、残席がある場合は窓口販売あり。

U25・高校生以下割引ご案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。
●料金＝U25[25歳以下]:公演ごとに指定する席種の半額/高校生以下:1,000円
●購入方法＝各公演の一般発売初日から取扱い。
●その他＝本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。座席の指定はできません。要・入場時本人確認書類提示。
※一部例外あり。詳細は各公演チラシ・HPにて。



プラットフレンズ募集 入会金・年会費無料

●特典

1 公演情報をメールでご案内します。
2 インターネットでチケット予約ができます。
3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。
※劇場窓口またはホームページからご登録いただけます。

18歳以下のお子様を

無料で招待 [座席数限定・事前申込制]

文化庁による子供文化芸術活動支援事業(劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業)として、以下の公演が採択されました。ぜひこの機会をご活用ください。

10/24

野村万作・野村萬斎 狂言公演2025

対象＝公演当日に18歳以下、小学生以上の方
※詳細は劇場HPにてご確認ください。

年末年始休館のお知らせ

穂の国とよはし芸術劇場は、下記の期間休館いたします。
2025年12月29日(月)～2026年1月2日(金)
なお、上記の期間中プラットチケットセンターは電話および窓口とも休業いたします。
チケットのご予約は、インターネットをご利用ください。24時間対応いたしております。休館中のチケットのお引き取りについては、ご予約の際にご確認ください。

Pura pura

バラコの 寄り道ぷらぷら

「霧ぬけて」 桑原裕子

穂の国とよはし芸術劇場 芸術監督



戯曲執筆の霧深い森をぬけると、3 キロ太っていた。

覚悟はしていた。この一ヶ月半の Uber の注文履歴が物語っていた。朝に夕に深夜3時にUberアプリを開いているうちに、気がつけば顔が一回り大きくなっていた。デスクに向かうときはなるべく楽な格好をしたいからと履いている、ほとんどゴムの効いていないズルズルのトレパンでさえきつく感じる。脱稿したらダイエット、脱稿したら絶対運動。そう唱えながら予定より数日遅れで書き終えたその夜、近所にオープンしたばかりの「資さんうどん」に行った。福岡県北九州市に本店を置く「資さんうどん」、取り寄せていたほど大好きだったあの店がまさか家から五分のところにオープンしてしまったのだから行かないわけにはいかない。ごぼ天肉ぶっかけうどんと、ぼた餅二個を決意のセレモニーとして腹に詰め込み、ついにダイエットを開始した。

まずは一日三キロ以上のウォーキングからはじめた。なんて小さな目標と思うかも知れないが、そもそも方向音痴で散歩がまったく楽しめない性格なうえ、執筆中はスマホの歩数計が100歩以内で収まる生活を送っていた私にとっては大きな進歩だ。稽古を終えて帰宅すると、尻がソファに張り付かぬうちにスニーカーへ履き替えて外に出る。こ

れまでは車で通っていたスーパーに汗だくで歩いて行き、あすけん（体調管理アプリ）で褒められるような食生活を目指すべく野菜とタンパク質を買って帰る日々。時にはわざと己の方向音痴に身を任せて長々と歩く。最初の一週間は、足が使いかけの消しゴムのようにむくんだが、最近ようやく落ち着いて。資さんうどんの横を通り過ぎても動揺しなくなった。

ウォーキングをなんとか飽きずに続けられるのは、このために買ったBluetoothのイヤホンのおかげ。聴くのは音楽やオーディブル小説などいろいろだが、なかでも聴いているのは、これまで縁遠かった毒舌ライバーたちの配信だ。“ライバー”とは、リスナーのコメントを拾い読みながら双方向で交流し生配信を行う人たちで、時にはリスナーに厳しすぎる口撃を浴びせたり、互いに激昂して舌戦を繰り広げたりもする。そこに集まる多種多様な人々——例えばホストに貢ぐ夜職の女性や、トー横キッズ、生活保護をもらいながらゴミ屋敷に住む人などのリアルな声を聴く。「弱者男性」「チー牛」「障がい者」手帳持ち」などのきつい通称が飛び交う場所には居心地が悪くなる一方、単に口が悪いだけと思っていた配信者たちが、実は世間から気に留めてもらえない人々の声

を拾い上げている現状も知った。あえて叱咤されたい人もいるし、たとえ中傷されても誰かに話を聴いて欲しい人たちの多いこと。物珍しげに意地悪く聴いてしまう自分もいるが、普段は目をそらしていた心の暗がりに手を伸ばされたような胸の痛みも感じる。

もちろん私はこの界限にまったく詳しくないので、これ以上配信界の深淵を覗く勇気もない。これはウォーキング中の一時的なブームに過ぎないだろう。けれど今、ことさら聴いてしまうのはきつと、配信に寄せられる相談事の多くが他者への依存や執着、情念、嫉妬といった愛の悪魔的メタモルフォーゼな悩みだからで、それは私がちょうど脱稿して稽古中の『霧ぬけて』という舞台で描いているテーマと通底しているからかもしれない。愛を見失うこと。愛が支配に変わること。愛が暴力になること。愛という霧のなかをさまよい、切り抜けようともがく人々。それはどこにでも存在し、白い“もや”の中でうずまいている。森の奥でもトー横でも、若者でも中年でも。

私はそれを物珍しく、意地悪く、胸が痛みながら見つめて稽古している。

歩き続けて体重は二キロ減った。暗い散歩道も平気になった。きりぬけるのはもうすぐだ。

Sponsor

広告募集

知識製造業
三遠機材株式会社
http://www.san-en.co.jp

Gallery⁴⁸
呉服町48 TEL.54-4848

有限会社 魚伊
電話 52-5256

グロトリアンピアノ地域特約店
白羽楽器 株式会社
電話 053-464-3015

ケンチク 701
KURONO ARCHITECT STUDIO
y.qlo0170@gmail.com

看板広告 アラキスタジオ
豊橋市上伝馬町16 電話52-5586番

本文具なら
精文館書店
TEL.54-2345

なければつくる
ONOCOM 株式会社 オノコム

外科・内科・胃腸科・麻酔科・肛門科
医療法人栄真会 伊藤医院
豊橋市小池町字原下35 電話45-5283（代）

創業文政年間
数寄屋 宗
豊橋市新本町40 電話52-5473番

調理と製菓のおいしい資格。
豊橋調理製菓専門学校
豊橋市八町通一丁目22-2 TEL53-2809

60th
anniversary

Carbon Offset for
150g-CO2eq
Waterloo¹¹⁰
Printing. Naturally.
CO₂削減に貢献しています！
この印刷物は、環境負荷を低減する「ふくレスト印刷」を利用しており、総計のCO₂削減量を支援しています。

豊橋銀行協会（順不同）
三菱UFJ銀行 みずほ銀行 静岡銀行 名古屋銀行
三井住友銀行 三井住友信託銀行 清水銀行 三十三銀行
十六銀行 愛知銀行 中京銀行 大垣共立銀行

創業江戸 御茶席菓子専門店
若松園
御菓子司

気まぐれコンサート
事務局／0532-62-9259（小川）

安心・安全な地下駐車場
パワ500
プラット主ホール・アートスペース公演等へのお客様は
30分150円を30分100円(上限4時間まで)に割引します。

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科
医療法人 塩之谷整形外科
理事長兼院長 塩之谷 香・副院長 栗田和洋
豊橋市植田町関取54 電話 0532-25-2115（代）

豊橋名産 命あくわ

井上皮フ科クリニック
診療時間 月・火・木・金 10:00～13:00 16:00～19:00
土 10:00～14:00 休診日＝水・日・祝
電話 0532-55-7007 愛知県豊橋市向山町字中畑13-1マイルストーン1F

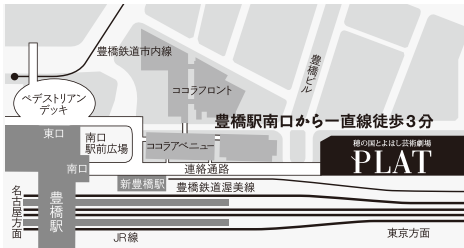
プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。
共和印刷株式会社
豊橋市小池町36番地の1 TEL46-3281 FAX46-3285

整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科
医療法人 大岩整形外科・皮フ科
院長 大岩俊久 豊橋市大橋通二丁目115 電話55-2100

伝統的工芸品豊橋筆
書道用品専門店
豊橋市呉服町四拾四番地 電話52-5514

ISO 9001 ISO 14001 愛知ブランド企業 認証・認定取得
株式会社 三光製作所
三光精密工業株式会社
豊橋市佐藤一丁目12番地の3

sala
サーラグループ



Support

特別賛助会員のご紹介

私たちは穂の国とよはし芸術劇場の活動を支援しています。

株式会社アイセロ
旭精機株式会社
株式会社イクモ
税理士法人イグラ会計
イノチオホールディングス株式会社
株式会社エクスラージ

大和田和恵
株式会社オリエント楽器
医療法人佳道会 藤城歯科医院
蒲郡信用金庫
川西塗装株式会社
河原崎 妙

株式会社三光製作所
三光精密工業株式会社
サーラエナジー株式会社
株式会社サーラコーポレーション
三遠機材株式会社
株式会社東雲座カンパニー
株式会社シュガーサウンド

大三紙業株式会社
戸田淳子
トヨグネ株式会社
トヨネン株式会社
株式会社豊橋印刷社
豊橋芸術文化事業サポート株式会社
豊橋ケーブルネットワーク株式会社

豊橋信用金庫
豊橋倉庫株式会社
豊橋鉄道株式会社
早川直宏
株式会社平松食品
藤城建設株式会社
学校法人藤ノ花学園

株式会社豊川堂
まちなかビブリオ倶楽部
松井商事株式会社
村田小児歯科センター
物語コーポレーション
有楽製菓株式会社 豊橋夢工場
ゆーもあねっと
若松園
匿名会員3名
（五十音順）

〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町 123 番地
電話＝0532-39-8810〔代表〕(9:00－20:00)
開館＝9:00－22:00 休館日＝第三月曜・年末・年始。
第三月曜が祝日の場合はその翌平日。
豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、
新豊橋駅(豊橋鉄道渥美線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、
お近くの公共駐車場等をご利用ください。

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT